

令和3年度 学校関係者評価書 (川南町立多賀小学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進							
1	家庭教育支援の充実 に努める。 ○「家庭学習の手引き」等をもとにした通信や懇談会等での啓発 ・ 家庭学習提出100% ・ 年2回よりよい家庭学習の具体的な姿を示す	3		○家庭学習については94%の提出率である。学校での指導により、身に付きつつあるも、家庭の協力が必要な状況である。 ○ノートの学習を中心に各階の廊下に掲示し、よりよい家庭学習の姿を示すとともに、自分より学年の掲示が憧れとなっている。	3.8		○家庭学習の提出率が素晴らしい。 ○家庭学習への取組は保護者の熱意や学校教育に対する理解度にも差がある。各家庭に応じた工夫も求められる。 ○受け身でなく疑問を持って学ぶことが必要。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進 する。(PTA活動) ○ 魅力ある行事の企画と、それらを核とした家庭、地域等との協力体制の推進 ・ 各行事等の参加率90%以上 ・ PTAと一体となった企画運営を学期1回	3	3	○授業参観の平均が85.3%である。行事等においても、保護者が参加したくなる工夫が必要である。また、授業参観を含めた各行事への意識を高めていく必要がある。 ○PTAと一体となり企画した「たが小であそぼう」が好評であり、今後もできる範囲での活動を行いたいと願っている。	3.8	3.8	○地域と一体となった活動を進めて欲しい。 ○地域の学校行事に対する支援や見守りは重要度が高い。保護者も情報発信し、地域との一体化に努めて欲しい。 ○コロナで行事の見学ができなかったが運動会は見る事ができてよかった。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進							
1	読書活動を推進 する。 ○ 読書好きの子どもを生むイベントの推進 ・ 全児童の目標設定と、その到達 ・ 年間6回の読書啓発イベントの企画運営	3		○図書主任を中心に宝探しやスタンプラリーなど多様な工夫をしたが、目標が高く、到達する児童は少なかった。 ○上記のような読書啓発イベントを計画的に行い、児童の読書に対する関心を上げられた。	3.8		○図書室がよく整備されている。 ○地域にとっては、学校内の活動が見えにくい。情報発信をさらにしてほしい ○読書は視野を広げる素晴らしい活動である。今後も大切にしていきたい。
2	確かな学力を育む教育を推進 する。 ○ 授業力向上につながる授業研究の究明 ・ 授業の在り方を深める相互授業公開 ・ 単元テスト平均得点率90%以上	3		○ 全員が授業公開し、研究会を深めた。ICT教育を中心とし、発問等についても意見を述べ合うことができた。 ○ 国語・算数について下学年では90%以上である。上学年では85%程度にとどまっている。あと1問正答になるよう、学習の深化を図りたい。	3.8		○授業研究等の実践が結果に出ている。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進 する。 ○ 特別の教科道徳の授業の充実 ・ 研究授業の実施と研修 ○ 畜産業等から「いのちを大切に授業」の企画 ・ 畜産業の見学等と命をつなげる授業企画 ○ 人権意識を高める指導の充実 ・ いじめ報告「0」無し(見つける目)	3	3	○研修で板書等具体的な授業の在り方を深めつつ、管理職による道徳の授業を行った。 ○生活科の中でヤギや牛にふれ合いのいのちのあたさきを感じることができた。 ○昨年度に比べいじめの報告が6割減少している。「気になる」児童についても目を向けている。	3.8	3.8	○児童の思いやりの心をさらに育てるためにも教育環境のさらなる充実を望む。 ○地区内の大規模な畜産農家等の協力を得て、現場の空気にもふれさせることができると感じる。 ○人権擁護委員を活用し多様な学びができるよと思う。
4	特別支援教育を推進 する。 ○ 個別の支援について共通理解・共通実践 ・ 月1回の生徒指導対策会での情報交換 ○ 関係機関との連携 ・ 特別支援コーディネーターを中心とした協力体制の構築	3	3	○情報交換及び共通理解を行い、対象の児童に対して共通実践できた。行動や生活面で改善が見られた児童がいた。 ○特支Co.の活動により保護者や関係各機関との連携を図り、多角的な児童の育成ができた。	4.0	3.8	○情報の整理と課題の共有が必要である。 ○分け隔ての無い学校生活をおくることができるように努めてもらいたい。 ○人権への理解が深まればいじめもなくなると感じる。多賀の特別支援教育は誇りに思う。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進 する。 ○ 地域の行事と学校教育を関連付けた計画 ・ 実施した内容について学校HP等による積極的な啓発 ・ キャリア教育と連携させ、郷土への思いを高める	3		○季節や行事と関連付けたHP等での積極的な情報公開を行うことができた。 ○見学や調査などを通して地域についての学びを深めることで、郷土への思いを高めることができた。	3.3		○川南の素晴らしさを親子で学ぶ機会が必要。 ○夏季休業中に、児童自身が地域の史跡等に詳しい住民に調査に赴くような工夫ができないか。
6	キャリア教育を推進 する。 ○ キャリアパスポートを生かした教育の推進 ・ 「キャリアパスポート」の100%活用 ・ 「キャリアパスポート」による地域の行事等との関連付け	3		○キャリアパスポートについて町で統一したキャリア教育の進め方ができ、次年度へ引き継ぐ素地ができた。 ○本年度は行うことができなかったが、来年度に向けて計画を引き続きしていきたい。	3.5		○キャリアパスポートの取組は継続は必須。 ○地域の行事を学校教育に上手く取り入れられるような持続的な取組が必要である。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進 する。 ○ 時代の先端をいく教育の推進 ・ タブレットを活用した研究授業実施 ・ 年5回以上の研修による指導者の育成	3		○全員の授業でタブレットを活用した授業実践を行うことができた。また、その活用方法等について新たなメリットやデメリットを確認することができた。 ○積極的な研修の参加を促し、ミドルリーダーとして中堅教諭の育成を図ることができた。	3.8		○タブレットの活用を「生き方」の指導に役立ててもらいたい。家庭でタブレットを活用する方法についても模索してもらいたい。 ○タブレットのメリットデメリットが明確になりつつあるなかでの、さらなる活用を願いたい。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実							
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進 に努める。 ○ 教職員の意識改革の推進 ・ 管理職による月1回の広報誌による啓発 ・ 全体→小集団→個人といった全体が円滑に仕事が行える環境づくり	3	3	○コンプライアンス等における広報を月1回行い、意識を高め職員の事故等の防止に努めることができた。 ○働き方の意識付けはできつつある。しかし、全ての仕事が円滑になっているとまでは至っていない。さらに、効率的な仕事の在り方について啓発していく必要がある。	3.8	3.5	○実施可能な部分から取り組んでもらいたい。 ○子どもたちとのかわりの中なので、働き方改革が進まないこともあると思う。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実 に努める。 ○ 緊急時・不急時における危機管理マニュアルを生かした環境整備 ・ 安全点検や登下校時の指導における危機	3		○危機管理マニュアルを各学級や専科教室に配付し活用を図った。設備等について確かな目で点検を行うことができた。また、下校時においては交通安全を中心に指導することができた。	3.5		○危機管理意識を実践の中で育成が必要。 ○右側通行を守っているが、自宅の近くになると気のゆるみが見られる ○安全安心な教育環境の充実も同様である。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進							
1	学校体育の推進 に努める。 ○ データを生かし、個に応じた指導の充実 ・ 体力テストを活用した、個の力を伸ばす授業づくり及び日常指導 ○ 体を動かすことが好きになる教育の推進 ・ 「先生と昼休みは外遊びデー」の設定	3	3	○昨年度のデータを比較して低い値の力を選び、力をつける方法について具体的に対策を練ることができた。 ○昼休みには基本的に外遊びをする習慣付けができた。	3.5	3.5	○家庭と連携して親子での実践を奨励する工夫をおこなってもらいたい。 ○始業前に運動場で活発に遊んでいる。体を動かすことが好きという気持ちを持たせよう、運動領域の中で苦手意識の払拭できる教育を望む。 ○不易と流行があるが、不易の部分を大切に子どもたちへの教育に邁進してほしい。